

山北の魅力を発信！ 秋も地域の行事がめじろ押し

～ 秋本番。これから開催を予定している各地域の行事を紹介します～

大毎収穫祭

大毎で秋の恵みを祝い、盛大に開催します。
開催日時：10月19日（日）10時～
集合場所：大毎 満願寺境内
（会場：集落内棚田）
参加費：2,000円
新米500gとお土産付き
募集人員：限定50名
申込み問合せ先
大毎農家組合 河面 秀喜
電話 75-2120



晴天のもと開催した大毎収穫祭の様子から

中継もみじマラソン大会

スポーツの秋。中継を駆け抜けましょう！
開催日時：10月26日（日）9時～
内容：5キロの部、2キロの部
（両部門ともマラソン・ウォーキング）
集合場所：中継集落公民館前
参加費：500円（記念品、芋煮会、保険料）
申込み問合せ先
中継マラソンクラブ 事務局 板垣 真
電話 090-2175-5868



昨年の中継もみじマラソン大会から

小俣宿のそばまつり

小俣で栽培した新そばを楽しみます。
開催日時：11月16日（日）11時～
会場：日本国ふれあい処 小俣屋
（小俣集落センター）
参加費：1,000円（新そばと郷土料理）
募集人員：限定100名
申込み問合せ先
小俣ふるさと楽校 教頭 佐藤 庄平
電話 76-2034



昨年の「小俣のそばまつり」の料理から

さんぽくまちづくり通信

第 10 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成26年（2014年）10月1日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 （住所）〒959-3993 新潟県村上市府屋 232
(TEL)0254-77-3111 (FAX)0254-77-2217 (E-mail)s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp



県境の集落【伊弉野集落】

暮らしと密着した道【寝屋集落】



伝統の宮のぼり【勝木集落】

棚田の向こうには【中浜集落】

ありのままの「山北の暮らし」を切り取った村上桜ヶ丘高等学校写真部の皆さんの作品から

普段のあたりまえの暮らしから

身の回りにある田や畑で、稲穂や野菜が実り、きれいに管理されている風景は、誰かが日々汗しながら作業をしているから見る事ができるものです。

あたりまえ。そう、あたりまえです。でも、何があたりまえでしょうか？管理しているからきれいなのか？でも、管理するのがあたりまえなのか？ある日、その風景が見られなくなったら……。

あたりまえと思っている日常こそが、今の山北に残されている大切なものではないでしょうか。

今、山北の未来を担う皆さんがそのことを学校や地域で学び、活かそうとしています。

今回は、山北の将来について、その思いを語っていただきました。



編集後記

実りの秋、食欲の秋、スポーツの秋……。秋を表すさまざまな言葉を日々実感する時期となりました。家の周りの山では「アケビ」を発見したり、仕事の終わりや休日に行くジョギングでは、夏に比べて「走りやすさ」を実感したりしています。

「秋はつるべ落とし」と言われるように、日の暮れるのが早くなります。「秋の夜長」夕食時間が長くなってしまいます。おいしい秋の恵みをついつい食べ過ぎたり、晩酌が進みすぎたりしないよう注意が必要かなあ～と感じる今日この頃です。

山北の将来への思い

未来の山北を担う皆さんから「山北の将来」に対する思いをうかがいました。



「山北の未来のために」

北黒川 齋藤 香菜 さん

山北中学校 3 年生の齋藤さん。「私の主張 村上岩船地区大会」で発表した内容を要約してその思いを紹介します。

山北は、自然が豊かで、ここでしか味わうことのできないものもあります。しかし、少子高齢化が進み、今年度、さんぽく北小学校では、新入生が 6 人と、子どもがとても少なくなってきました。これは、都市部へ、進学や就職をする人が多くなっていることが原因だと思います。

この問題を解決するためには、もっと山北の良さをアピールし、知ってもらうことが大切だと思います。今、山北では「出身であることを誇れるまちづくり」を目指し、アートフェスタや夏祭りなどいろいろ活動しています。この活動に私たちも参加していますが、できることに限りがあります。

でも、私たちが、大人が考えてくれた活動に参加したり、授業をとおして山北の課題やできることについて考えたりすることこそが大切で、やるべき事だと思っています。

これからも私たちができることを実行し、山北の未来を私たちの手で作り上げていきたいと思います。

「私たちが活動する場がほしい」



府屋 秋葉 千尋 さん

村上桜ヶ丘高等学校 2 年で写真部に所属し、地域内を精力的に回る秋葉さん。そんな中、最近、集落やまちづくり協議会などのイベントで「賑やかになってきているな」と感じる反面、集落内に空き家や空き地が増え、「集落に生活感が無くなって寂しい」とも話していました。

また、「高校生の今、地域のボランティア活動に参加する機会が減った」と感じている秋葉さんから、「これから私たちもボランティア活動などに参加できる場（機会）がほしい」とも話していました。

地元の魅力を「写真」という手法で見出す秋葉さん。山北への思いをキラキラした目をしながら語ってくれました。



勝木集落で受け継がれている「稚児舞」

「地区の活動から子どもたちが地域へ愛着を」



堀ノ内 板垣 真人 さん

夢 21・さんぽく塾で、様々な活動に参画する板垣さん。「何もないとこだけど、あたり前のように海・山・川のきれいな自然がある」と山北を評価しながら「やはり、子どもの数が年々少なくなるいところが気になる」と話していました。

また、山北の将来に対しては「山北ではいろんな団体が多くイベントを行っています、子どもたちがそのことをとおして、山北を好きになってほしい」と、未来を担う子どもたちへの期待とともに「職場が少なく市外や県外へ出てしまう人が多い中、これから高速道路が通ることで便利になる反面、通過点になることに不安を覚えている」とも語っていました。

先日、お子さんが生まれたばかりの板垣さん。未来の担い手の思いがひしひしと伝わってきました。

見方を変えれば
様々な価値がある
桑川集落



「子どもを育てるための環境改善が必要」

府屋浜町 増子 美紀 さん



子育て世代の増子さん。やまゆり学童保育園に、お子さんを迎えに来ている所でお話を聞きました。

「山北は自然が豊かで夏休みなど海や川で子どもたちが遊

べるのでとてもいい」と話す増子さん。また「子どもは少ないけど、男女の関係なくとても仲がいい」と笑顔で話してくれました。

でも「小児科が近くになく不安もある」。そして、子どもの進学についても「高校などの通学などにも不安がある」とも話してくれ「将来、山北でも医療や学習の環境改善が必要ですね」と将来の山北への思いも語ってもらいました。

お子さんの将来については「一度は都会で自立した生活を送ってほしい」と願う一方「いずれは、帰ってきて近くにいてほしい」という思いも話してくれました。

山北の将来につながる担い手を育てる取り組みから

《山北中学校の取り組み》

「少子高齢化が進んだ山北を元気にするためには何が必要か？そして自分たちは何ができるか？」3 年生が中学生生活の集大成として検討を進めています。

福祉施設や保育園へ出向き、調査を進めたり、国語の授業の中で意見交換を行ったりしてきました。

今後は、まちづくりを進める関係者との意見交換を行い、年度末に向け自分たちが考える「山北への思い」をまとめ上げる予定です。

山北を担う若者の行動に注目です。

《村上桜ヶ丘高等学校とのコラボ事業》

昨年から当協議会と連携して、「写真」という手法を用いて山北の魅力の発見に取り組んでいます。今年のテーマは「山北の暮らし」。日々のごくありふれた日常の中、忘れがちな「価値」を高校生の目をおして「映し出し」てくれています。

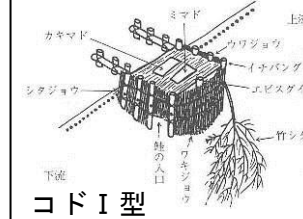
3 月に開催予定の「地域づくり楽習会」などで、皆さんにご覧いただきます。

なお、今号の 1～2 ページで紹介した写真は、写真部の皆さんが撮影したものです。

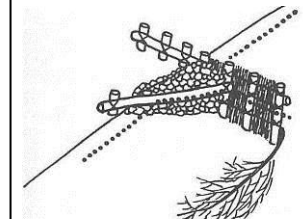
【山北の暮らし⑦】「コド漁」

山北地区内の大川、勝木川には、晩秋から初冬にかけ、鮭が群れをなして遡上してきます。山北だけではなく、市内各所の河川でも鮭の遡上が見られ、それぞれの土地において鮭の漁法は違ってきます。

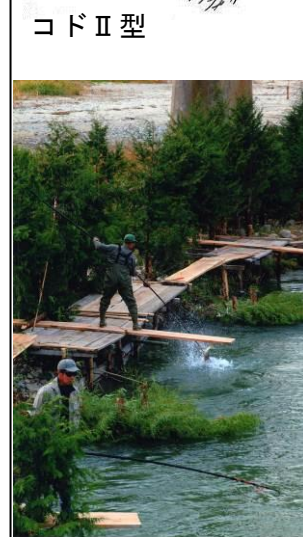
特に、山北の大川では、全国的にも珍しい「コド漁」が、伝統的に受け継がれています。過去、山形県赤川でも行われてきたとされる文献もありますが、現在では、大川特有の漁法と言われています。



コドⅠ型



コドⅡ型



また、コド漁には図のように 2 種類の形式がありますが、仕掛けが比較的簡易な「コドⅡ型」が現在では主流と言われています。

今、大川では、鮭の遡上期に向け、各所でコド漁の仕掛けづくりをされている様子が見られます。漁をさす皆さんは、鮭の遡上を心待ちにしていると思いますが、地域の皆さんは鮭の味わいを楽しみにしています。

最近では、わざわざ大川まで伝統漁法を見学に来る皆さんもいます。

地区内外から注目を浴びる「コド漁」は、間もなく開幕です。

《今後の行事予定》

- 11月2日 さんぽく祭 【山北総合体育館ほか】
- 11月9日 スローフードフェスタ 【ゆり花会館】